

15 生殖医療センター



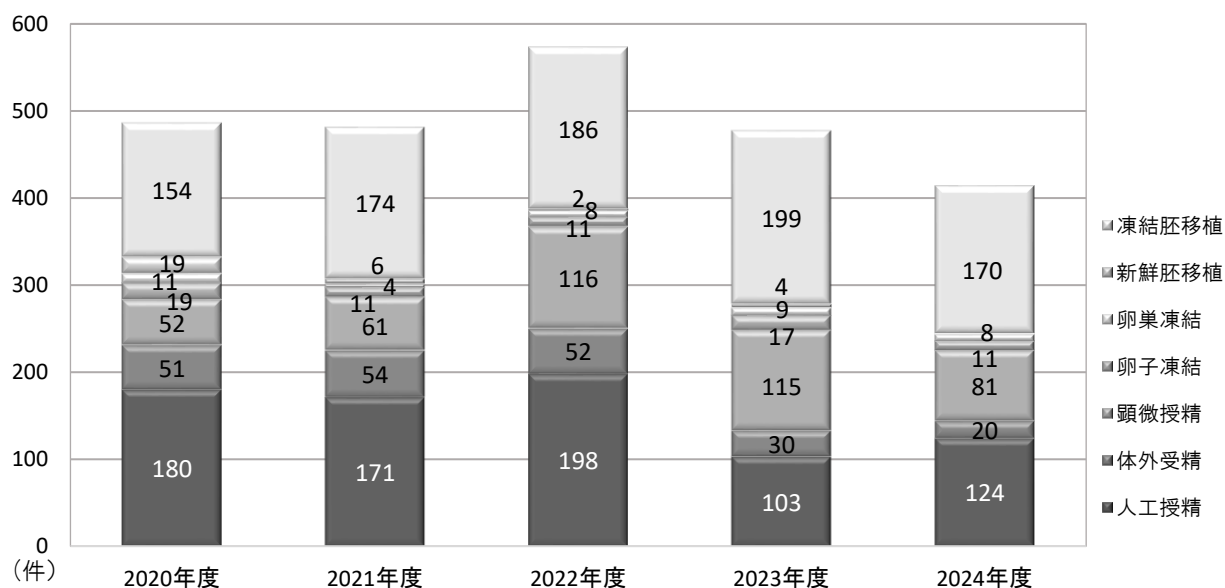
生殖医療センターは設立から12年が経過した。当センターでは終日外来診療を行っており、午前・午後いずれも受診が可能である。大学病院特有のさまざまな合併症を抱える患者さんが多いのが特徴であるが、若年層から高齢の不孕患者さんまで、背景や不孕原因に応じて、タイミング指導から体外受精・胚移植などの高度生殖補助医療まで、幅広い診療を行っている。2022年4月からは、体外受精・胚移植や人工授精などの不孕治療が保険適用となったことを受け、新規患者数および体外受精を行う患者数が増加している。

また、子宮筋腫、子宮内膜症、卵管閉塞などの不孕原因となる器質的疾患を有する患者さんに対しては、腹腔鏡、子宮鏡、卵管鏡などの内視鏡手術を中心とした手術療法を積極的に実施しており、良好な治療の成績を収めている。特に入院を必要としない外来子宮鏡手術を推進し、患者さんの満足度向上に努めている。

さらに、2016年1月に設立された「兵庫県がん・生殖医療ネットワーク」を通じた妊孕性温存外来では、若年がん患者さんの将来的な妊娠の可能性を保つことを目的に、がん治療に支障をきたすことなく、治療開始前に速やかに精子凍結、卵子凍結、胚凍結、卵巣凍結などを行っています。それぞれの患者さんに最適な妊孕性温存治療を提供し、原疾患の早期治療につなげられるよう体制を整えている。妊孕性温存外来は平日毎日11時から実施しており、緊急対応も可能なカウンセリングおよび治療開始体制を構築している。

今後も、生殖医療センターのさらなる発展を目指し、努めていく。また、生殖医療、産科、婦人科、遺伝、出生前外来の各部門が密接に連携できる大学病院の強みを最大限に活かし、「兵庫医科大学で治療を受けたい」と思っただけのような、質の高い診療を心がけていく。

15-1 年度別人工授精・体外受精・顕微授精・卵子凍結・卵巣凍結・胚移植（新鮮・凍結）（合計445件）



15-2 年度別新規患者数

